

## 医学教育シリーズ

# セクションエディターとして

平出 敦

近畿大学医学部救急医学

本学の医学教育で牽引的な役割を果たしてこられた松尾理教授の後を引き継いで、このジャーナルの医学教育シリーズのセクションエディターを拝命いたしました。本学の医学教育は、従来から誇るべき成果をあげてきましたが、近畿大学医学会雑誌に、こうしたセクションが設けられていること自体、素晴らしいことだと思われまます。今後、教員間で教育内容を共有するためにも、また、学生に活躍してもらうためにも、このセクションを活用していく方向で、編集できればと考えています。特に、このセク

ションの内容を作るために、さまざまな方々がこの雑誌を通じて教育のことを考える場ができれば理想的です。

このセクションの構築にアイデアがありましたら、ご遠慮なくご教示、ご示唆をいただけましたら幸いです。今回は、新しいセクションエディターとして、ご挨拶とともに、「いまさら人に聞けない医学教育のことば」と題して、ER部内のシニアメンバーで討論した内容をエディトリアルとしてまとめてみました。

## いまさら人に聞けない医学教育のことば

松田外志郎 栗原敏修 平出 敦

近畿大学医学部救急医学

### はじめに

医学部の教員の多くが、研究業績や診療実績で實際上、採用されるために、教育の基本的な概念を知らずに教員となるのが少なからず起こっています。従来は、研究や診療の先端が医学部の大学人のめざすところであり、教育には、格別、精力を注がなくても学生や研修医はついてくると信じて疑わぬ教員も少なからずいました。しかし、臨床研修制度の必修化と相前後して、教育・研修に対する関心や、新しい学習科学の概念の導入がさかんになり、

こうした教員には、新しい潮流についていけない部分もあるというのが本音です。かく言う我々も、医学教育のことばのイロハを知らずに教員となり、教育に関する議論では冷や汗をかくことが少なからずあります。そこで、「いまさら人に聞けない医学教育のことば」と題して、現在の教育に関連する概念の基礎の基礎についてまとめました。すでに用語として理解されている先生方には、当たり前すぎることもかもしれませんが、最近の潮流に関連づけて概説しましたので、是非、一読いただき、教育を考える上でご参考にしていただければ幸いです。